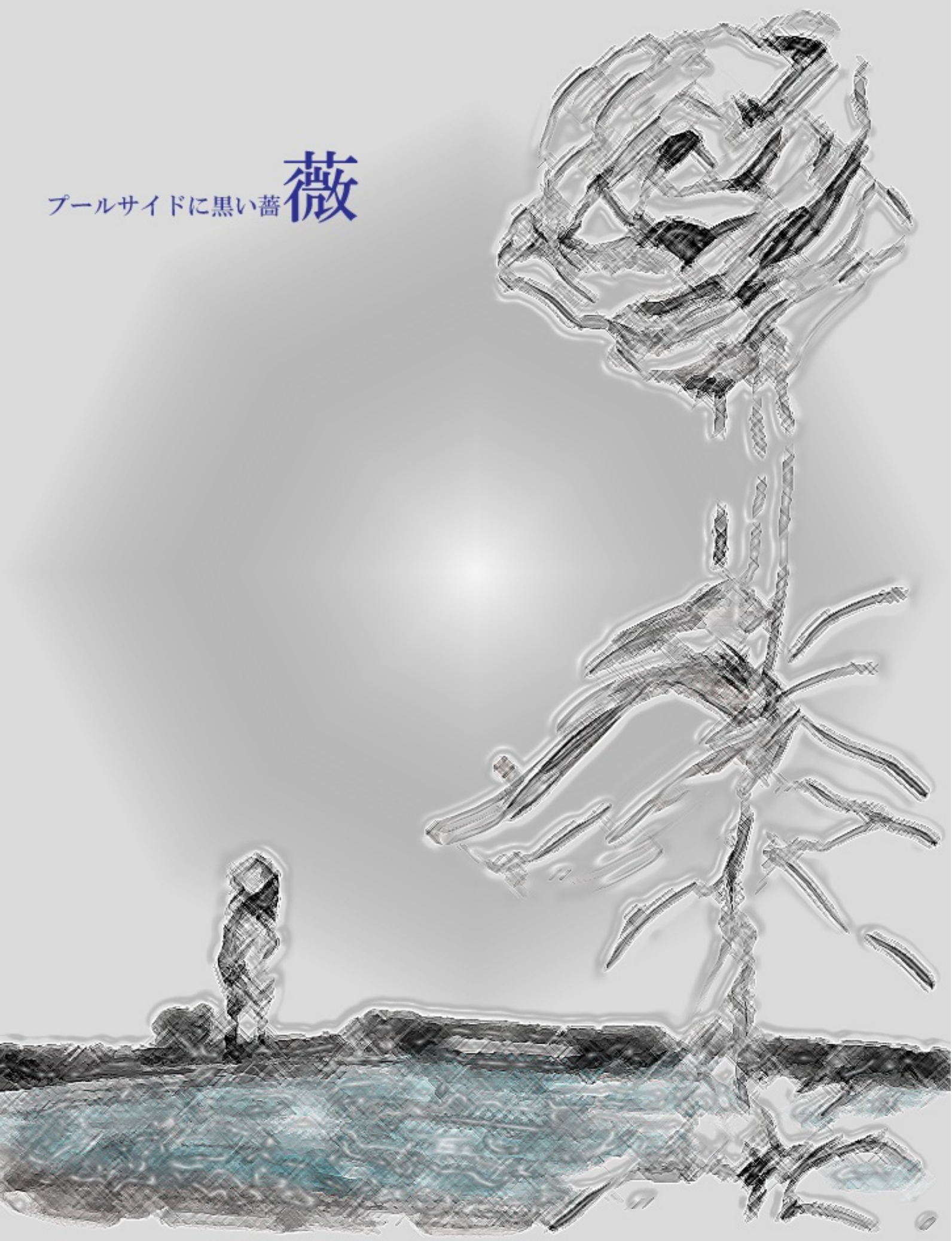


プールサイドに黒い薔薇

薔薇



いつ頃からでしょうか…？

泉と涼子が、愛し合うようになったのは…

二人とも今年の四月で、三年生になった女子高の水泳部員です。

もちろん、

二人とも性同一性障害でもありませんし

レスビアンでもありません。

ただただ、相手の存在に惹かれ合い

性的にマッチしてしまっただけなのです。

お互いがお互いの唇を見て欲情もするのです…

これが何という愛の形なのか私には解りませんが

ただ素直に相手の存在を愛してしまった、

それだけの事なんだと思っています…

しかし、やはり、その愛には幼さが残ります…

執着心も生まれますし、独占欲も生まれてきます…

些細な相手の目の動きに嫉妬したりもするのです…

嫉妬心は厄介です。

いったん発生した嫉妬心は

まだ未生育の心に容赦なく邪悪な華を咲かせます。

女という性、思春期という乙女心も手伝い

どんどん膨らんでいきます…

涼子が泉に、初めて嫉妬心を抱いたのは  
一年生の新入部員に対する  
泉の舌舐めずりをするような目を見た時でした。

自分だけを見ていて欲しい…  
その時、極まる執着心を異常に膨張させていた涼子は  
なんと事も有ろうに  
次第に愛していたはずの泉に殺意を抱くようになっていったのです。

そして…

それを実行に移したのは七夕の夜を過ぎた  
とある今年一番の暑さとなった日の午後の事でした。

その日は、学校は全学部、創立記念日のため休校でした。  
クラブ活動も、泉と涼子の二人だけで行なっていました。

その日、涼子は、開業医である父親の診察室から  
黙ってある薬を持ち出していました。

強力な睡眠導入剤のようなものでしょうか…  
涼子は泉が目を離した際に  
泉が持参していた水筒の中に、その薬をこっそり入れ溶かしたのです…

泉の溺死体がプールで見つかったのは、その翌朝の事でした。

それから数日後…

次の悪夢が起こりました。

泉の初七日を迎えた日の夜の事です…

今度はなんと…

泉の後を追うかのように

制服姿のままの涼子の溺死体がプールで発見されたのです。

警察の方では事故ではなく自殺と判断されました。

司法解剖の結果、涼子の身体からは目立った外傷はなく  
体内からも飲食物以外、何も発見されなかったためです。

水泳部員だった涼子がなぜ、この水深の浅いプールで

自殺することが出来たのか疑問が残りますが

警察ではそう片付けられました。

まあでも…恐らく、初七日の夜、

泉のことを思いながらプールサイドに、たたずんでいた涼子の足を、

泉が掴んでプールの中へ引き摺り込んだのだと…

私はそう考えています…

え…泉による怨みかと…？

いえ、私はそうは思っていません。

ただ、あの二人は…

一緒に、いたかっただけなんじゃないでしょうか…

数日後の夜

プールの周りを散歩していると

プールサイドに一輪の黒い薔薇の花が咲いているのが見えました…

いえ、実際は咲いてはいませんよ。

ただ咲いているように、そう見えただけなのです…

私はその黒い薔薇を引き抜き、プールの中へと投げ入れました。

投げ入れてみると不思議です…

黒かった花弁は、水の色に反応したのか

見る見るうちに澄んだブルーへと変わっていきました。

そして更に不思議なことに…

軽さゆえ、しばらく浮遊したまま漂っていた薔薇が

まるで何かに呑み込まれていくように、一瞬のうちにプールの奥深くへと吸い込まれていったのです。

二人が持って行っちゃったんですね。

いいのです、

二人に、あげたのだから。

そして、心から思っていますよ。

二人の未来に幸あれと…。

end

## プールサイドに黒い薔薇

<http://p.booklog.jp/book/43550>

著者 : ORIGINAL.S

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/storybeforedawn/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43550>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43550>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.